

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和元年度第3回学校運営協議会
- 2 開催日時 令和2年2月6日(木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 不破高等学校 ガイダンス室
- 4 参加者 委員 高木 淳一 不破高等学校PTA会長
長谷川 妙子 関ヶ原町教育委員会教育委員
原川 拓雄 垂井町立不破中学校長
北澤 みさ子 垂井町立宮代保育園・幼稚園園長
田宮 仁史 特別養護老人ホームいぶき苑 施設長
中村 美幸 地域住民代表(垂井町)
高木 佐知子 地域住民代表(大垣市)

コミュニティスクール協力推進員

後藤 省治	垂井町議会	議長
太田 佳祐	垂井町議会	議員

学校側	内木 晃	校長
	橘 博	教頭
	小寺 弘春	事務長
	臼井 澄人	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 挨拶

- ・校長

(2) 生徒発表(本校での生活を振り返って)

(3) 今年度の学校運営

(i) 進捗と近況報告

(ii) 学校評価 「令和元年度学校評価アンケート」より

(iii) 来年度以降の学校運営

(4) 意見交換

- ・多文化共生が言われる時代に不破高校の学校方針・取組はその精神が生きている。
- ・学校は地域の宝である。学校の存続に行政も力を添えていきたい。その為には具体的に進めることが大切で、不破高校の持っている魅力を示せるとよい。
- ・これからは外国籍の労働者が多くなるので、学校教育にもそれに対応する仕組みを作るとよい。
- ・発表してくれた生徒の力強い言葉がうれしかった。
- ・学校評価については、満足や期待が数字に表れている。高評価が少し下がったのは落ち着いてきた表れで、安定期に入ったと思う。
- ・イベントへの協力等のボランティアが多いが、生徒の要望から生まれる活動があるとよい。南宮大

社の掃除をしたいとか、そのような声はないか拾い上げてほしい。

- ・少人数コミュニケーション講座についてはニーズが高いので継続してほしい。
- ・自信を持って話す生徒の姿が心強かった。少人数授業を活かしてほしい。
- ・授業は少人数なので、複雑な活動で授業を組み立てるよりシンプルな方がよいのではないか。
- ・学校評価アンケートで、生徒指導に対する学校運営協議委員の評価が低いのは、委員が垣間見た姿によるものであるからだと思われる。生徒指導で教員が生徒に迎合するのはよくない。
- ・文化祭で吹奏楽部の演奏に感動して、3月に私たちの施設で演奏してもらおうことになった。新しいつながりができてよかった。
- ・先日2年生30名ほどが職場見学に来て説明を熱心に聞いていた。在学中に私たちの施設で職場体験をした卒業生が進学先から再びインターンシップに来ている。進路決定には体験したことが大きく影響するので体験する機会を多く作るとよい。
- ・少人数コミュニケーション講座による学びは社会人としての人材育成にも活きる。
- ・当保育園で体験授業を受けた生徒が進学先から実習に2名来ている。保育士を目指す人を増やすためにも体験授業を続けてほしい。
- ・少人数コミュニケーション講座の内容は、小さな子どもにも大切なことで、自己肯定感を持ち自己を振り返ることは大切である。
- ・「県立高校だが垂井町立不破高校だと思っている。」という言葉に意欲を感じる。中学校の生徒が主体的に考えて進路選択ができるように指導していきたい。
- ・不破中学校の弓道部との合同練習をこの1月から始めている。野球やバドミントンを含め部活動でも頑張りたいという生徒を育てていきたい。また、少人数指導が合う生徒には不破高校への進学を勧めていきたい。
- ・リーダーは自ら学ぶ力がついているので、どの生徒にも広がるとよい。
- ・進路状況を見ると、生徒一人一人に向き合って指導しているのがわかる。入学した生徒が、胸を張って学校生活を話せるように育ててくれる不破高校のよさを、中学生や保護者・住民に伝え広げる方法を見つきたい。自然科学部の発表など頑張っていることを住民にもさらにPRしてほしい。
- ・ボランティア活動の引率をしてもらっている先生に感謝する。
- ・保護者として、子どもが不破高校に入ってよかった。生徒が素を出せることがよい。小回りが利く点もよい。
- ・垂井町外から来ている生徒が多いということは、垂井で3年間過ごし、垂井を宣伝してくれる生徒を育てられるというメリットでもある。

(5) 会議のまとめ

- ・来年度の学校運営方針を承認していただきありがとうございます。
- ・来年度は少人数コミュニケーション講座をより必要な生徒に対応できるように変えていく。
- ・生徒や教員の減少に鑑み、部活動の運営を見直していく。
- ・垂井町議会との連携協定を指向する。
- ・垂井町と連携して国際スポーツ交流(JETプログラムSEA)を活かして小中高の部活動の活性化を図る。
- ・垂井町および地域住民と連携し、総合的な探究の時間を活用して生徒が活動する姿を住民の皆さんに見ていただきたい。
- ・令和2年度学校運営協議会の運営について、より地域連携を深めるためコミュニティスクール協力推進員を配置し、垂井町議会議員等にも組織に入ってもらいたい。
- ・来年度創立70周年を迎えるので、11月15日(日)に行事を計画している。